



えがお 愛顔つなぐえひめ国体 みきゃん通信

問 役場 国体推進課 内線4203・4204

No.17

2017(平成29)年に開催される「^{えがお}愛顔つなぐえひめ国体」。今年度の「みきゃん通信」では、鬼北町で行われる民泊に協力いただく24の民泊協力会の会長から民泊に向けた意気込みなどを聞いていきます(※紹介順は届け出順です)

清延民泊協力会(清延／好藤地区)



会長 須田 健司

定期的に飲み会を開催するほど仲の良い清延区の住民たちは、女性陣からの「民泊をせんわけにはいかんでしょう」の一声で、民泊協力会の設立を決めました。調理班を司る女性陣からは「なんちゃ心配せんでかまんけんね」という力強い言葉も飛び出したそうで、須田会長は「女性の決断力と心意気には脱帽だ」と話します。

「不安は一切ない」と話す須田会長は、「清延民泊協力会の拠点となる清延集会所は築約45年経つし、小さな集会所。しかし、知恵と工夫を凝らしながらやれることを精一杯やれば、私たちの気持ちは選手たちにきっと届くと信じている」と、目を輝かせながら話していました。

スポーツが大好きな須田会長をはじめとする清延民泊協力会は、民泊を通して清延区の団結力を発揮できることを、とても楽しみにしています。須田会長は、「民泊を実施する期間は大変だと思うけど、終わってみればいい思い出となる。この民泊の話題で今後10年間は飲めるね。いいおつまみになる」と笑顔で話していました。

奈良下組民泊協力会(奈良下／近永地区)



会長 武田 邦広

先日行われたリハーサル大会を振り返り、「久しぶりに興奮した」と話す武田会長率いる奈良下組民泊協力会は、リハーサル大会中こんな経験をしました。

リハーサル大会中、奈良下組集会所には大会に出場していた松山東雲高等学校の選手たち約30人が宿泊していたそうです。その間、選手たちが食べる朝夕のおかずを調理したり、昼食のおにぎりをにぎったり、調理班にとってもいいリハーサルになったようです。武田会長は「来年に向けていい経験となった。何よりも、選手たちの喜ぶ顔を見ることができてよかった。民泊に向けて少し自信もついたので、来年はこの経験を活かした心のこもったおもてなしをしたい」と、意気込んでいました。

「民泊を通して、奈良下組の団結力を深めることが1番」と話す武田会長は、この民泊が全てにおいて「いいきっかけ」になると考えています。武田会長は「私たちも選手たちも笑顔になれるよう、やるからには思いっきり楽しんで民泊に取り組みたい」と、笑みを浮かべていました。